健康診断受診者の血清尿酸値の分布と、高尿酸血症の有病率

桑原 政成^{1, 3)} 河北 俊子²⁾ 丹羽公一郎¹⁾
 西 裕太郎¹⁾ 西原 崇創¹⁾ 安齋 均¹⁾
 新沼 廣幸¹⁾ 太田原 顕⁴⁾ 水田栄之助⁴⁾
 浜田 紀宏⁵⁾ 萩野 和秀⁶⁾ 山本 一博⁷⁾
 久留 一郎³⁾

目 的

日本人における血清尿酸値の分布について、健康診断の大規模データを対象として詳細に検討された研究は少ない。今回、当院の大規模データベースを元に、健康診断受診者における血清尿酸値の分布の検討を行い、高尿酸血症の有病率の評価を行った。当研究では、血清尿酸値に影響を与える可能性がある。高血圧、高尿酸血症の治療を受けている受診者は除外して検討を行った。

方 法

聖路加国際病院予防医療センターに2004年1月から2010年6月に受診した90143人（男性49.1%，46.3 ± 12.0歳）のうち、血液検査を実施されている90138人を対象とした。同一人物の複数受診時は、期間中における初診時のみを対象とした。健診受診時の血清尿酸値を1.0mg/dlごとに分割し、男女別にそれぞれの値における割合を示した。血清尿酸値7.0mg/dl以上を高尿酸血症とし、男女

別の有病率、各年代における高尿酸血症有病率を算出した。

結 果

高血圧治療群が6199人（6.9%，男性4051人）、高尿酸血症・痛風治療群が1884人（2.0%，男性1844人）であり、高血圧と高尿酸血症・痛風治療群が668人（0.7%，男性641人）であった。本研究で対象したのは上記患者を除く82723人（全体の91.8%，男性38982人）であった。高血圧、高尿酸血症・痛風の治療を受けていない群における高尿酸血症の有病率は、男性25.2%，女性0.86%，全体12.3%であった。尿酸値の分布の結果については、以下に表で示す。

考察・結論

健診における高尿酸血症の有病率は男性で約4人に1人であり、女性の有病率と比較して約30倍の頻度であった。

血清尿酸値(mg/dl)	1>	1-2	2-3	3-4	4-5	5-6	6-7	7-8	8-9	9-10	10-11	11-12	12-13
全体 (%)	0.08	0.07	2.67	16.45	27.77	23.33	17.31	8.87	2.72	0.62	0.09	0.02	0.00
女性 (%)	0.10	0.11	4.81	28.42	43.14	18.49	4.06	0.72	0.11	0.02	0.01	0.00	0.00
男性 (%)	0.05	0.01	0.28	3.01	10.51	28.76	32.18	18.02	5.66	1.30	0.18	0.03	0.01

1) 聖路加国際病院心血管センター循環器内科

Masanari Kuwabara, Koichiro Niwa,
Yutaro Nishi, Shuzo Nishihara, Hitoshi Anzai,
Hiroyuki Ninuma

2) 聖路加国際病院予防医療センター

Toshiko Kawakita

3) 鳥取大学大学院医学系研究科機能再生医科学再生医療学部門

Masanari Kuwabara, Ichiro Hisatome
Akira Otahara, Einosuke Mizuta
Toshihiro Hamada

4) 山陰労災病院循環器内科

Kazuhide Ogino

5) 鳥取大学医学部地域医療学講座

Kazuhiro Yamamoto

6) 鳥取大学医学部卒後臨床研修センター

7) 鳥取大学医学部病態情報内科学